

学校编码 : 10384

分类号 _____ 密级 _____

学号 : 12220061150364

UDC _____

厦 門 大 学

硕 士 学 位 论 文

日本語の若者言葉の特徴及び文化心理への検討
——『若者言葉辞典』と『若者言葉事典』を中心に
日语中年轻人用语的特征及文化心理探讨
——以《年轻人用语辞典》和《年轻人用语事典》为中心

韩 小 辰

指导教师姓名: 顾江萍 副教授

专 业 名 称: 日语语言文学

论文提交日期: 2009 年 4 月

论文答辩时间: 2009 年 月

学位授予日期: 2009 年 月

答辩委员会主席: _____

评 阅 人: _____

2009 年 月

厦门大学博硕士论文摘要库

厦门大学学位论文原创性声明

本人呈交的学位论文是本人在导师指导下,独立完成的
研究成果。本人在论文写作中参考其他个人或集体已经发表
的研究成果,均在文中以适当方式明确标明,并符合法律规
范和《厦门大学研究生学术活动规范(试行)》。

另外,该学位论文为()
课题(组)的研究成果,获得()课题(组)
经费或实验室的资助,在()实验室完成。

(请在以上括号内填写课题或课题组负责人或实验室名称,
未有此项声明内容的,可以不作特别声明。)

声明人(签名):

200 年 月 日

厦门大学博硕士论文摘要库

厦门大学学位论文著作权使用声明

本人同意厦门大学根据《中华人民共和国学位条例暂行实施办法》等规定保留和使用此学位论文，并向主管部门或其指定机构送交学位论文（包括纸质版和电子版），允许学位论文进入厦门大学图书馆及其数据库被查阅、借阅。本人同意厦门大学将学位论文加入全国博士、硕士学位论文共建单位数据库进行检索，将学位论文的标题和摘要汇编出版，采用影印、缩印或者其它方式合理复制学位论文。

本学位论文属于：

（ ） 1. 经厦门大学保密委员会审查核定的保密学位论文，
于 年 月 日解密，解密后适用上述授权。

（ √ ） 2. 不保密，适用上述授权。

（请在以上相应括号内打“√”或填上相应内容。保密学位论文应是已经厦门大学保密委员会审定过的学位论文，未经厦门大学保密委员会审定的学位论文均为公开学位论文。此声明栏不填写的，默认为公开学位论文，均适用上述授权。）

声明人（签名）：

200 年 月 日

厦门大学博硕士论文摘要库

要 旨

若者言葉は、若者と呼ばれる人達が使う言葉のことである。現代日本語の中、若者言葉が非常に活躍して、社会に広く注目されている。本稿では『若者言葉辞典』¹と『若者言葉事典』²に載っている若者言葉を対象として計量言語学の理論に基づいて統計を行い、言語学の理論に基づいて分析し、若者言葉の言語特徴と造語法の特徴を見出し、検討する。なお、若者言葉の特徴から日本の若者の文化心理を分析してみたいということである。総じて言えば、本稿では若者言葉の言語特徴、造語法の特徴及び若者の文化心理を探ってみようとする。

本稿は五章から構成されている。

第一章 序論 本稿の研究対象、研究目的、研究方法を述べ、問題を提起する。また、先行研究を紹介し、若者言葉に関する研究成果をまとめた上、不足点も指摘する。

第二章 若者言葉の歴史、定義、その発生の社会背景を述べる。若者言葉の登場時代とその背景を紹介し、現代日本語における位置づけを明確する。若者言葉と俗語、新語、流行語、集団語との比較を行い、若者言葉の定義をもっとはっきりさせる。なお、若者言葉の発生の社会背景を述べる。

第三章 『若者言葉辞典』と『若者言葉事典』の見出し語をデータベースに入力して、総合分析を行い、若者言葉の言語特徴及び造語法の特徴をまとめてみる。若者言葉の表記、語種、品詞別分布、意味分布、語構成などの面から言語特徴を分析する。造語法について省略、借用＋意味変化、頭文字化、派生、倒置、もじり、言い換え、語呂合わせ、混交、音韻改造などがまとめられる。

第四章 日本社会と日本文化を背景に、若者言葉の特徴から見る若者の文化心

¹ 米川明彦. 『若者言葉辞典』[Z]. 東京堂出版, 1997

² 亀井肇. 『若者言葉事典』[M]. NHK出版, 2003

理をまとめる。若者が遊び心、反逆心理、伝統性、西洋かぶれ、連帯意識などの文化心理を持っている。

第五章 結論 若者言葉の表記の特徴は片仮名愛用、ローマ字愛用、小文字愛用、文字混用などある。語種の特徴は和語、漢語、外来語、混種語がある一方、KY 語¹も含まれる。品詞別分布の特徴は名詞が一番多く、動詞、形容動詞、形容詞などは少なくないのである。意味分布について社会生活、人物評、感情、行動、ファッションに関する言葉が多いということである。若者言葉が簡潔化、頭文字化という特徴をもっている。若者言葉の造語法や表現の仕方の変化が多様かつ豊かなものであり、暗号化、隠語化、「ノリ」化していく傾向がある。若者が遊び心、反逆性、伝統性、西洋かぶれ、連帯意識などの文化心理を持っている。

キーワード：若者言葉、言語特徴、造語法、文化心理

¹ KY 語というのは日々交わす会話の頭文字をとって略語化したもの。(筆者注)

内容摘要

年轻人用语是指年轻人所使用的语言。在现代日语中，年轻人用语频繁出现并受到社会的广泛关注。本文以《年轻人用语辞典》、《年轻人用语事典》两本词典中所收录的年轻人用语为对象，运用计量语言学的理论进行统计，运用语言学的理论分析并探讨年轻人用语的语言特征、造词法特征。此外，试图从年轻人用语的特征分析日本年轻人的文化心理。总之，本文将试探年轻人用语的语言特征，造词法特征和年轻人的文化心理。

本文由五章组成。

第一章 序论 阐明本文的研究对象、研究目的、研究方法并提出问题。介绍总结前人研究的成果和研究现状，提出至今为止研究的不足点。

第二章 阐述年轻人用语的历史、定义、及其产生的社会背景。介绍年轻人用语登上历史舞台的时间和背景，明确其在现代日语中的定位；将年轻人用语的定义与俗语、新词语、流行语、集团语的定义进行比较，进一步明确年轻人用语的定义；阐述年轻人用语产生的社会背景。

第三章 将《年轻人用语辞典》和《年轻人用语事典》中收录的词条输入数据库，进行综合分析，归纳出日语中年轻人用语的语言特征和造词法的特征。语言特征从词语的表记、词种来源、词性分类、意义分布、词汇构造等方面进行分析。造词法的特征有：省略、借用+意义转变、头文字化¹、派生、倒置、谐音、替代、仿词、混交、音韵变化等。

第四章 以日本社会和日本文化为背景，从年轻人用语的特征探讨日本年轻人的文化心理。通过分析得出年轻人有以下心理，即娱乐消遣意识、逆反心理、传统性、崇洋心理、连带意识等文化心理。

第五章 结论 年轻人用语表记的特征是较多使用片假名、较多使用罗马字、小文字化、文字混用等。词种来源的特征是除了和语、汉语、外来语、混种语外还包含 KY 语。词性分类的特征为：名词数量最多，动词、形

¹ 取日常会话中的句子的起头罗马字或者起头假名，组合而成的词语。（笔者注）

容动词、形容词数量也不少。意义分布的特征是有关社会生活、人物评论、感情、行为、时尚方面的词语为主。年轻人用语有简洁化、头文字化等特征。年轻人用语的造词法和表达方式的变化丰富多样，有暗号化、隐语化、注重会话的进程等发展趋势。年轻人有消遣娱乐意识，逆反心理，传统性，崇洋心理，连带意识等文化心理。

关键词：年轻人用语；语言特征；造词法；文化心理

目 次

第一章 序論	1
1.1 日本語の若者言葉を対象とする研究の意義	1
1.2 先行研究	1
1.3 研究対象、研究目的、研究方法	3
第二章 若者言葉の定義、歴史、発生の社会背景	6
2.1 若者言葉の定義.....	6
2.2 若者言葉の歴史.....	10
2.3 若者言葉の発生の社会背景.....	11
第三章 『若者言葉辞典』と『若者言葉事典』から見る若者言葉の 特徴	15
3.1 言語の特徴.....	15
3.2 造語法の特徴.....	25
第四章 若者言葉からみる日本の若者の文化心理.....	41
4.1 遊び心	41
4.2 反逆性	43
4.3 伝統性	44
4.4 西洋かぶれ	46
4.5 連帯意識	47
第五章 結論	49
参考文献.....	52
謝辞	56

目 录

第一章 序论.....	1
1.1 日语中年轻人用语的研究意义.....	1
1.2 文献研究.....	1
1.3 研究对象、研究目的、研究方法.....	3
第二章 年轻人用语的定义、历史、产生的社会背景.....	6
2.1 年轻人用语的定义.....	6
2.2 年轻人用语的历史.....	10
2.3 年轻人用语产生的社会背景.....	11
第三章 从《年轻人用语事典》和《年轻人用语辞典》看年轻人用语的特征.....	15
3.1 语言特征.....	15
3.2 造词法特征.....	25
第四章 从年轻人用语看日本年轻人的文化心理.....	41
4.1 消遣娱乐意识.....	41
4.2 逆反性.....	43
4.3 传统性.....	44
4.4 崇洋心理.....	46
4.5 连带意识.....	47
第五章 结论.....	49
参考文献.....	52
致谢.....	56

第一章 序 論

1.1 若者言葉を対象とする研究の意義

若者言葉は正式の言葉ではなくても社会生活に次々と飛び出して活躍している。街中で耳に飛び込む聞きなれない日本語、意味不明の言葉がどういうふうに変化しているか、どんな特徴を持っているかということについて学術的な検討が必要であろう。さらに、国語辞典の『広辞苑』第6版で、10年ぶりに改訂され、「出版元の岩波書店は今回の編集方針の一つは「若者言葉がわからない」という高齢者の要望に応えたことであろうという、新出単語はのべ1万語を新たに加え、そのなかニート、メタボリック症候群、逆切れ、イケメン、めっちゃ、うざいといった若者言葉までが含まれる。」¹若者言葉がもっと注目されていく傾向があるといえよう。お年寄りも若者言葉を理解したい気持ちも強そうである。また、若者は社会の支えだといえよう。日本社会の一部として活躍している若者の将来も日本の将来と強くつながっている。日本社会はどのような方向に変化していくかということは若者の肩に責任もあれば、義務もある。それによって、若者の考え方、世界観、価値観を十分理解する必要があると考える。若者言葉を研究することを通して、日本の若者の生活様式、考え方、心理などが見られるであろう。

1.2 先行研究

日本でも中国でも、学者の研究成果は若者言葉の研究を推進させる力となるわけである。

日本では、若者言葉を対象とする研究文章は数少なくないのであり、とくに、九十年代半ばから、若者言葉についての研究はブームになりそうである。米川明彦（1998）の『若者語を科学する』²によると、「日本語の若者言葉の研究は

¹ <http://book.asahi.com/news/TKY200710230374.html> により

² 米川明彦. 若者語を科学する[M]. 明治書院, 1998

90年代に入って本格化に始まったと言ってよい。」そうである。国立国会図書館のデータベースで、「若者言葉」「若者語」を入力すると、それぞれ27件と35件が出た。そのなか、梅花女子大学文化表現学部日本語学の教授米川明彦の論文と著作には『若者語を科学する』、「若者ことば研究序説」¹、「現代若者ことば考」²、「集団語—若者語から業界語へ」³などある。米川明彦は若者言葉の定義、種類、造語法など系統的に分析してきた、若者言葉の研究を大きく推進したといえよう。大阪外国語大学教授小矢野哲夫氏の論文に「わかいモンの言葉と現代語」⁴、「流行語に見る現代若者像」⁵、「女子大学生のキャンパス言葉」⁶、「若者言葉とコミュニケーション効果」⁷などある。若者言葉を位相語として研究を深めてきた。つまり、若者言葉の機能、現代語との関係という立場から研究をしてきた。

『中国定期刊行物全文数据库』を調べた結果、日本語の若者言葉に関する論文は30編ぐらいある。また、『優秀修士論文データベース』を調べたところ、2編の修士論文は若者言葉に関係があるようである。筆者の調べるかぎりでは、若者言葉に関する論文のなか、最初発表したのは1996年吉林工業大学の劉麗華の「日本年轻人用語」⁸であり、若者言葉の機能、分野、数量、造語法、ブームになった原因を分析した。造語法に関しては、借用・省略・語呂合わせ・派生四つの方法をまとめた。2006年徐曙に発表された論文「現代日语中的若者言葉的特征分析」⁹では、若者言葉の例をあげて標準語と比べて、若者言葉の語形、意味、音韻語調、文法など四つの面より簡単に分析していた。楊寧の「从新语中的年轻人用语看日本年轻人的现状」¹⁰は二十世紀九十年代以降の若者言葉を対象として特徴を分析し、日本の若者の生活現状また社会に対する態度及び精神世界を探ってみた。優秀修士論文である『日本語中の若者語

¹ 米川明彦. 若者ことば研究序説[J]. 月刊言語, 2006

² 米川明彦. 現代若者ことば考[J]. 丸善, 1996

³ 米川明彦. 集団語—若者語から業界用語へ[J]. 日本語学, 2002

⁴ 小矢野哲夫. わかいモンの言葉と現代語[J]. 国語展望. 尚学図書, 1990

⁵ 小矢野哲夫. 流行語に見る現代若者像[J]. 聖教新聞社, 1993

⁶ 小矢野哲夫. 女子大学生のキャンパス言葉[J]. 日本語学, 1994

⁷ 小矢野哲夫. 若者言葉とコミュニケーション効果[J]. 国語展望, 1990

⁸ 劉麗華. 日本年轻人用語[J]. 日語学習与研究, 1996

⁹ 徐曙. 現代日语中的“若者言葉”的特征分析[J]. 同济大学学报, 2006

¹⁰ 楊寧. 从新语中的年轻人用语看日本年轻人现状[J]. 日语学习与研究, 2004

の研究——背景、造語法、修辞、出自をめぐって中国語と比較する』¹と『日朝両言語における若者言葉対照研究』²は中国語の若者言葉と四つの面より比較を行い、それぞれ日本の若者言葉と中国語、朝鮮語の若者言葉の特性の対照研究を行う。

先行研究をまとめると、まず、若者言葉に対する研究歴史にしてはまだそれほど長くないということである。それに、研究成果には定着していない内容もある。たとえば、若者言葉の造語法について、分類法はさまざまであるが、学者たちの分類法は重なる部分もあれば、足りなくて漏れる部分もある。本稿では、若者言葉の造語法について前の研究成果を踏まえて補充したり調整したりしてまとめてみた。たとえば、米川明彦は若者言葉の造語法に省略法を用いるが、その分類について「上略」「中略」「下略」「二箇所以上を省略」「複合語の各要素の上部を省略」などに分けた。筆者は省略の方式分類について、米川明彦の分類法と異なって、「一語省略」「二語省略」「多語省略」などに分ける。また、若者言葉について、計量研究が少なく、本稿では二冊の若者言葉専門辞書を出典として計量的に研究を行う。若者の文化心理についての研究はあるが、若者言葉の特徴から見る若者の文化心理という立場で研究を行うのは結構少なかったのである。それに、若者言葉の特徴を分析するうえで、若者の文化心理をまとめてみる。

1.3 研究対象、研究目的、研究方法

1.3.1 研究対象

本稿の研究対象は、主に 21 世紀前後十年間の若者言葉で、『若者言葉辞典』と『若者言葉事典』に収録された若者言葉を中心とする。いわば二冊の辞典・辞書をその出典としている。『若者言葉辞典』の著者は米川明彦で、1997 年出版され、若者言葉の意味を辞書形式で解説し、更に用法や関連情報がある語句に対しては辞典形式で細かく解説している辞書である。『若者言葉事典』は

¹ 張添羽. 日本語中の若者語の研究——背景、造語法、修辞、出自をめぐって中国語と比較する[D]. 優秀修士論文データベース, 2006

² 朴美琴. 日朝両言語における若者言葉対照研究[D]. 優秀修士論文データベース, 2007

2003 年出版され、編集者は亀井肇である。この事典には 21 世紀始めごろの若者言葉が収録されている。この二冊の辞書に収録された言葉を系統的に分析し、データベースを作って量的な研究を行い、言葉の特徴をまとめるとともに、若者言葉の作り手である若者の文化心理、社会心理の分析を行う。

若者言葉は基礎的、基本的な語彙ではなくて、特殊な言葉だと言える。そこで、言葉の辞典は二種類に分けられ、一つは国語辞典であり、もう一つは新語、流行語、隠語、業界用語、専門語などの特殊語辞典である。本稿では『若者言葉辞典』はその後者の特殊語辞典に属している。事典とは、いろいろな事物・事柄について説明したものを 1 冊の本にまとめたものである。本稿の『若者言葉事典』は事典であり、事典の性格を持っている。

筆者の調べたところ、若者言葉を一冊の本に集められる正式的に出版された辞書あるいは事典は数少ないのである。主に、四冊が出版された。それは米川明彦に編集され、1997 年出版された『若者言葉辞典』、亀井肇に編集され、2003 年出版された『若者言葉事典』、加藤主税に編集され、2005 年出版された『若者言葉事典』、現代略語研究会によって 2008 年出版された『KY 語辞書』四冊である。

米川明彦によって 1997 年出版された『若者言葉辞典』が 92 年前後から登場した若者言葉を中心に収録したものである。亀井肇に編集され、2003 年出版された『若者言葉事典』が 2003 年前の五六年間の若者言葉を収録した。この二冊の辞典、事典では会話の例を挙げて、類義語・関連語、使用地域を指摘した。会話の例がもっとも重要で、これを読んで会話の「ノリ」が理解できるからである。加藤主税によって編集された『若者言葉事典』は名古屋地域限定の若者言葉、地域性を持つのも一つの特徴であって本稿の研究には不適切だと考える。『KY 語辞書』に収録されているのはしばしば使われる KY 語である。KY 語のなか若者言葉はただ一部だとされているので、若者言葉研究に不十分だと考える。そして、『若者言葉辞典』と『若者言葉事典』（亀井肇）は辞書の基本的な特徴を持つ上、見出し語は地域限定ではないし、言葉の量も計量研究に適応している。それで、この二冊の辞書が適当だと考える。よって、本稿では、米川明彦の『若者言葉辞典』と亀井肇の『若者言葉事典』を選らんで研究対象

Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to etd@xmu.edu.cn for delivery details.

厦门大学博硕士论文摘要库